花園城跡（大里郡寄居町）

築城年代：平安時代末期、築城者：藤田政行

ここは花園城主であった藤田氏の菩提寺である善導寺

牛頭観世音なる供養碑が立つ

左手に説明板が立っている

藤田善導寺

浄土宗の寺であり白狐山悟真院藤田善導寺といい、別名を藤田道場、又は藤田の壇林といいます。建物は、本堂を中心に山門、稲荷社、観音堂、大玄門からなります。

中世の武蔵七党猪俣党の支流である藤田氏の菩提寺であります。

この寺は、永仁5年（1297年）に藤田持阿良心上人により創建され、武蔵国における藤田派の中心の寺院として栄えました。また、天文年間（1532年頃）になって、督蓮社法誉聰上人が花園城主の藤田康邦の後援を受けて復興し、鉢形城主の北条氏邦も帰依して繁栄したが、天正18年（1590年）豊臣秀吉の後北条氏攻略の軍勢による兵火の為に破壊され衰退しました。

徳川家康入府の後、川越から照蓮社寂誉遵道上人が来て再興したので、これを中興としています。

本尊として室町中期の作の阿弥陀如来を安置し、本堂と無常門は寛延3年（1750年）に建築されました。堂内には寛延6年には金竜斉宗信の絵画「百人一首画格天井」があり、また、平安時代末期作の木造釈迦如来像とも寄居町文化財に指定されています。

寺宝として、江戸時代初期の雄誉霊厳上人の書「一枚起請文」の掛軸があります。

寄居町・埼玉県

その名も「藤田善導寺」

藤田持阿上人舊跡（旧跡）とある

この背後の小山に花園城跡がある

境内にはこんな説明板も立っている

町指定文化財　木造釈迦如来坐像

指定　平成七年五月十日
所在　寄居町大字末野一六八六

本堂の右奥にある仏像は、当寺に伝来した釈迦如来坐像で、像高五〇・四センチメートルである。

この仏像は、頭部や扁平気味な丸顔の面部、小ぶりな目鼻だち、撫肩、奥行の浅い前かがみの体形と薄い膝前、それを包む衲衣にも彫りの浅い平行状の衣文を配する定朝様式に代表される平安時代・藤原期の伝統をよく伝えている。

残念なことに後世の補修が所々に見受けられるが、製作時期は、十二世紀の末頃の造立と推定され、当町域最古の平安時代の仏像の一例である。

町指定文化財　百人一首画格天井

指定　昭和三十七年十二月一日
所在　寄居町大字末野一六八六

本堂天井には、一辺約八五センチメートルの正方形の桐材の一枚板百枚に、百人一首を題材として、一枚毎に歌人の肖像画と作歌を記載してある。歌の字体は江戸時代に流行となった「御家流」と呼ばれている字体である。また、このほか、八枚の板に龍の絵が描かれており、その龍の絵の内一枚には、製作年代と製作者の銘が記載されている。

作者は狩野派（中橋）正信の子孫、宗信である。製作年代は、寛永六年（一六二九）とあり、善導寺再建の時期に合わせて製作したと考えられるが保存が良く、現在も大変色鮮やかに残っている。

平成十年三月

寄居町教育委員会

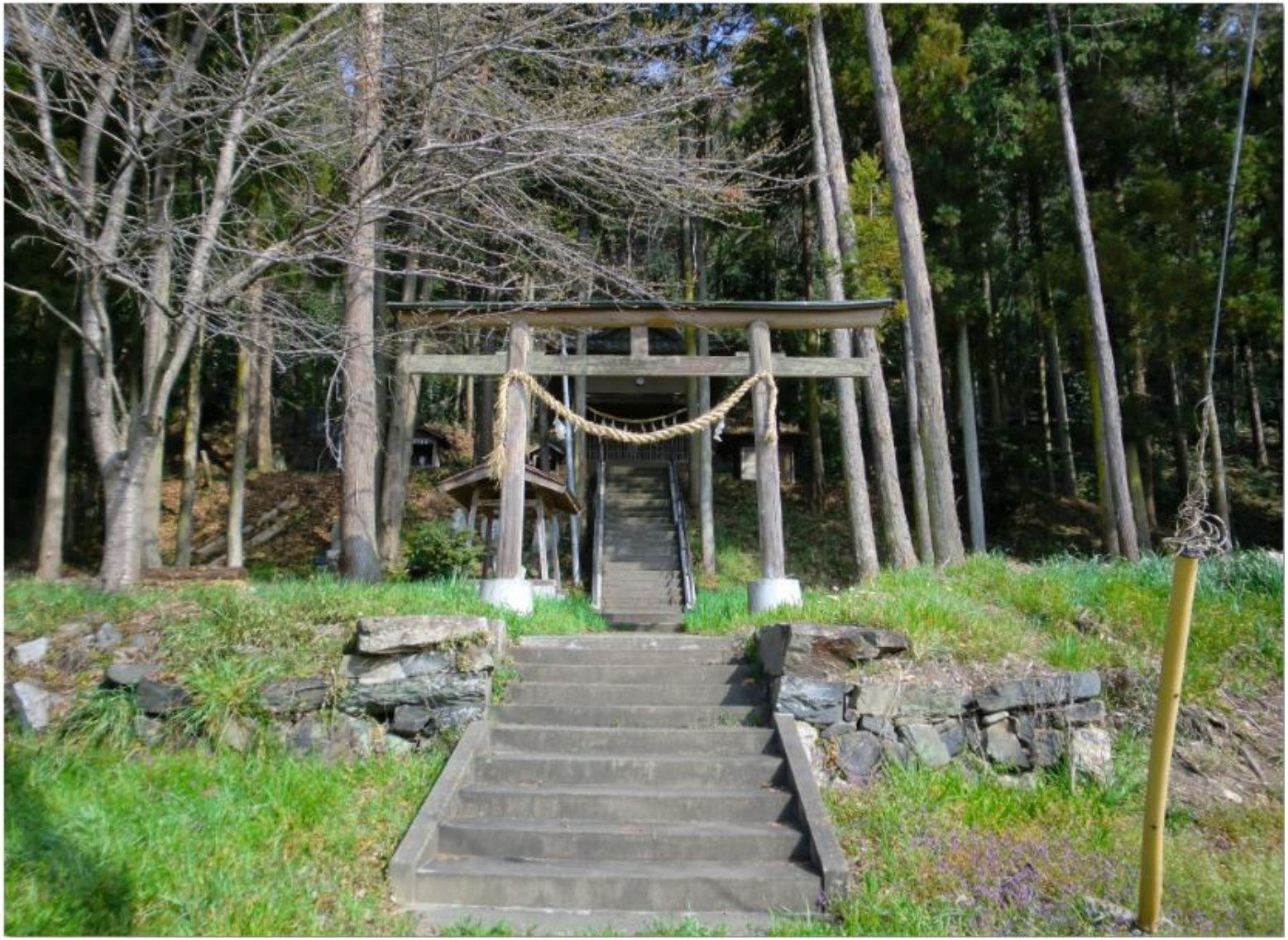
寄居十二支寺
ハイキングコース案内
円良田湖
五百羅漢
少林寺
善導寺
正龍寺
藤田康邦
北条氏邦
夫婦の墓
天正寺
公園
寄居
警察署
至 本庄市
熊谷市
至 高崎
熊谷
140
至 秩父
秩父線
JR八高線
寄居
町役場
西念寺
東武東上線
寄居小学校
放光院
正樹院
本町
クリニック
消防署
ガソリン
スタンド
浄心寺
善導寺にて朱印致します
寄居駅
川西線
至 八王子
玉淀河原
正喜橋
至 小川町
戌 亥
阿弥陀如来
西念寺
酉
不動明王
浄心寺
善導寺にて朱印致します
未 申
大日如来
正樹院
午
勢至菩薩
放光院
辰 巳
普賢菩薩
正龍寺
卯
文殊菩薩
少林寺
丑 寅
虚空蔵菩薩
天正寺
子
千手観音菩薩
善導寺
寄居駅 25分 天正寺 30分 正龍寺 20分 善導寺 20分 少林寺
45分
ハイキング時間（徒歩） 約3時間
5分 西念寺 5分 正樹院 7分 浄心寺 10分 放光院

善導寺とその右手に藤田康邦や北条氏邦の墓がある正龍寺、左手には花園御岳城跡の麓にある少林寺が記されている

花園城跡へはここを少し進んだ右手の諏訪神社から登るらしい/手前の石垣に表示板が置いてある

「花園城登り口200m」とある

正面が諏訪神社/背後の小山に花園城跡がある



一段上がったこの平場は城跡に関連したものなのかもしれない

諏訪神社社殿

これは諏訪神社拝殿「格子天井絵」

社殿の左手には境内社が祀られている

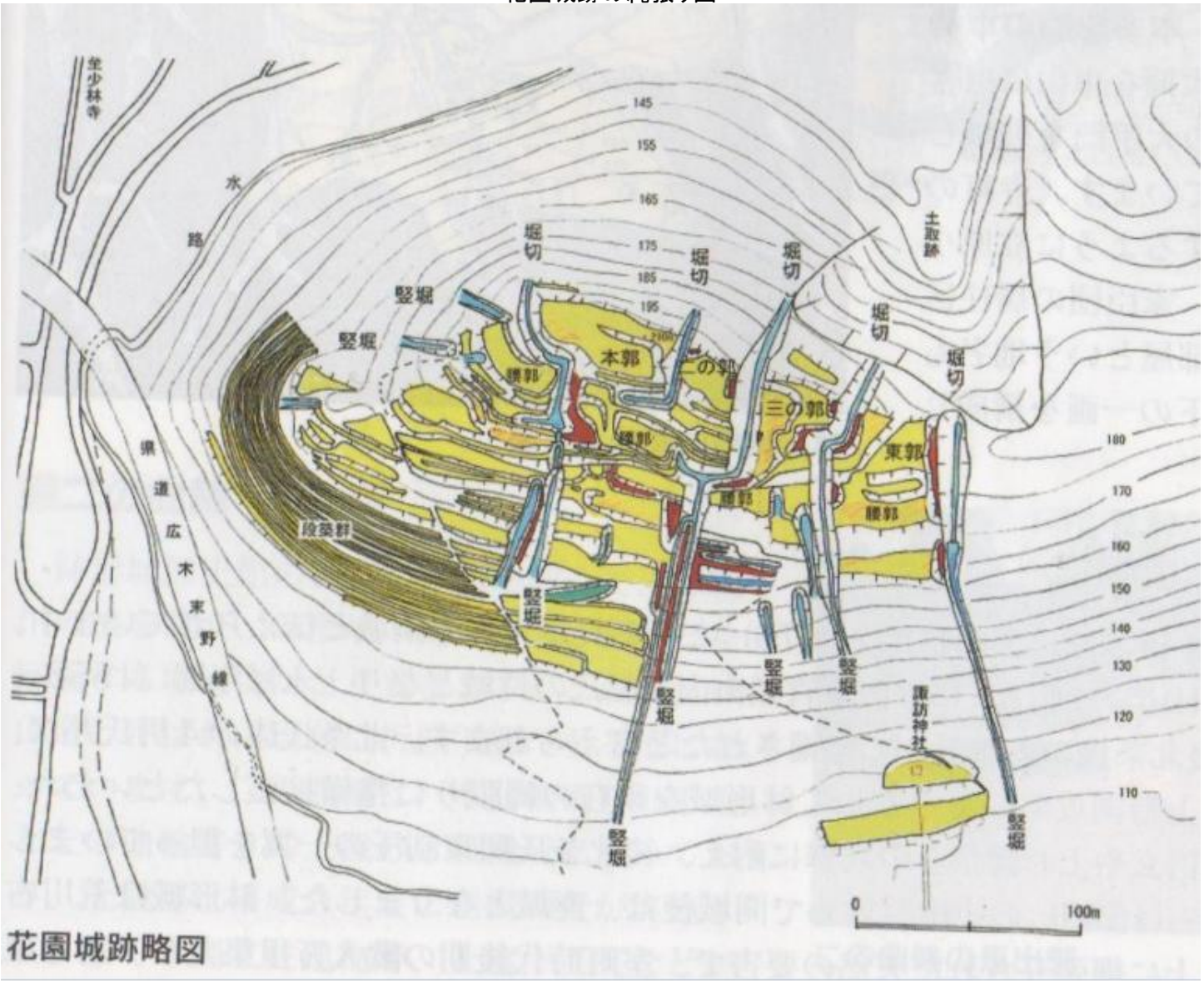
さて、花園城跡には社殿右手からアプローチする

花園城

ここを登って行く

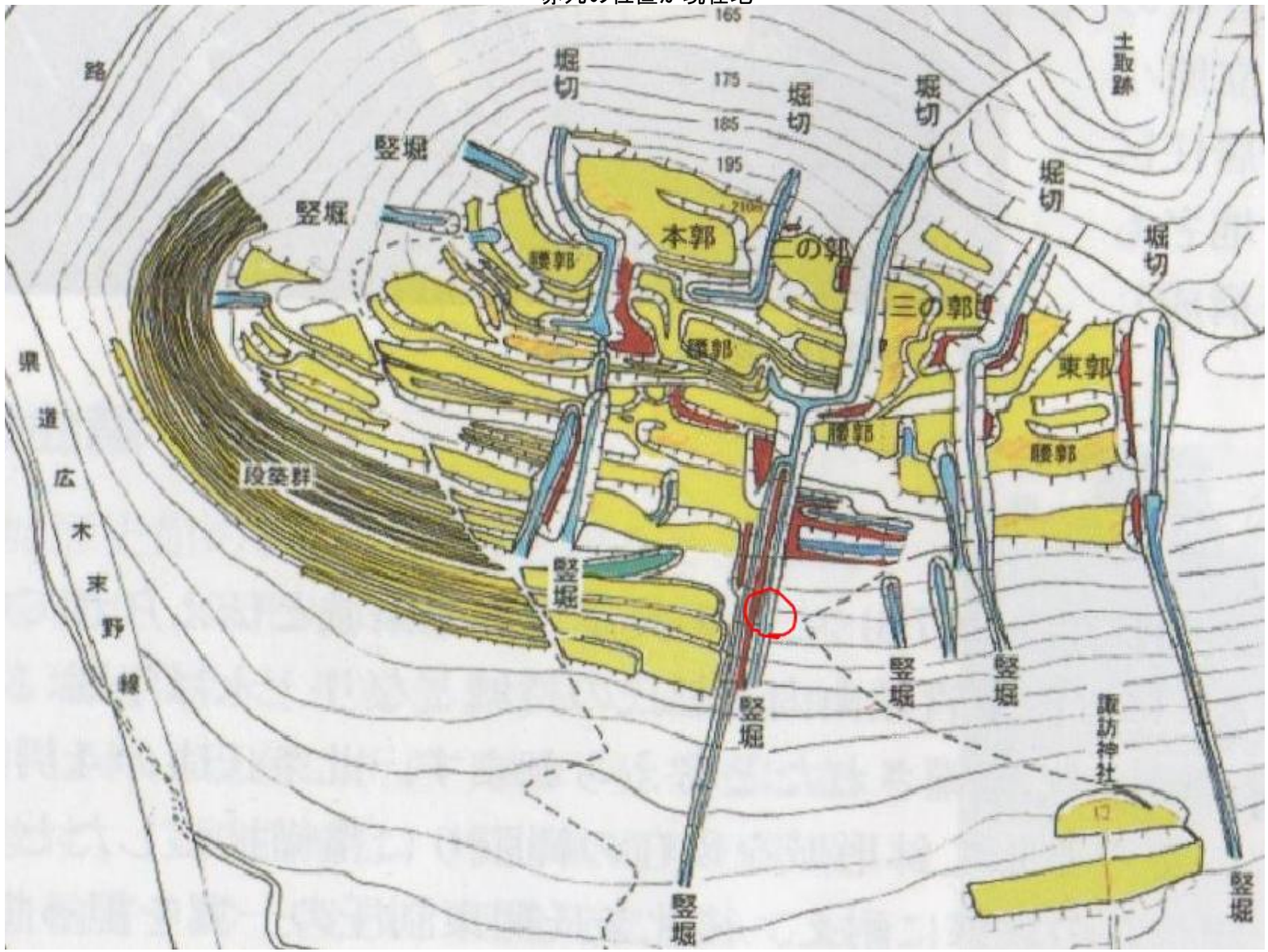
暫く行くと大きな堀跡（竪堀）がある/事前資料で確認する補助員

花園城跡の縄張り図



埼玉県立嵐山史跡の博物館発行「比企の中世・再発見」より

赤丸の位置が現在地


165
175
185
195
堀切
堀切
堀切
堀切
堀切
土取跡
竪堀
竪堀
本郭
二の郭
三の郭
東郭
腰郭
腰郭
腰郭
腰郭
腰郭
段築群
竪堀
竪堀
竪堀
竪堀
竪堀
竪堀
諏訪神社
県道広木東野線
路

←

↑

竪堀に下りて斜面上方（山頂方向/北方向）を見たところ

振り返って斜面下方（南方向）を見たところ

土塁の上に登って上方を目指す/実はこの土塁の左側にも平行に竪堀がある(二重竪堀)

土塁上を登って行く/土塁の左右に竪堀があるのが見てとれる

振り返って見たところ

さて、ここでもう一度事前資料をチェックする

左手（西方向）に折れて進もう

斜面上方を右手に見ながら進んでいく

あちこちに平場（腰郭か）がある

更に進む

また、このような石積みが何か所も見られる

少し行くと別の堀跡（竪堀）がある

こんな感じ

堀跡（竪堀）を登りながら北方向へと進む

竪堀はいつしか堀切となって北方向へと繋がっている

ここにも石積みの遺構がある

アップで見る

正面の山の上が本郭のようだ

岩山を削って堀としている

本郭の西側を巡る堀跡（堀切）に辿り着く

本郭のある右手の斜面

その下の岩肌の斜面

アップで見る

堀跡（堀切）はこの先の急峻な北斜面に繋がっている

斜面となって下っている

そこから左手を見たところ/平場となっている（腰郭か）

右手のこの上が本郭

右手に回り込んで本郭上へと上がろう

これが本郭/東側から西方向を見たところ

振り返って東方向を見たところ

「花園城跡」と記された石柱

そこから東方向を見たところ

本郭の東の部分の様子

本郭を東方向へと進む

すると大きな堀跡（堀切）が下に見える/向こう側は二の郭

堀跡（堀切）へ下りる

補助員が立っているところは本郭から二の郭への土橋

土橋をアップで見る

堀跡（堀切）を土橋から南方向（斜面下方）へ見たところ

振り返って見たところ/土橋とその向こうは北側の急峻な斜面

さて、二の郭へ上がろう

ここが二の郭

振り返って二の郭から本郭を見たところ

堀跡（堀切）を見下ろす

さて、二の郭を更に東方向へと進む

するとまた堀跡（堀切）がある/向こう側は三の郭

その堀跡（堀切）に下りる

これが二の郭と三の郭を区切る堀跡（堀切）/南側へ行くと右手に折れ、最初登って来た二重竪堀に繋がっている

北側はこのように急峻な斜面となって下りている

更に三の郭へと進む

これが三の郭

振り返って二の郭を見たところ

さて、三の郭を行くとその先にはまたもや堀跡（堀切）が見えてくる

この堀跡（堀切）の向こうは東郭

やや緩やかな堀跡（堀切）

この平場は東郭

そして、この東側にも堀跡（堀切）があった

その堀跡（堀切）に下りて南方向（斜面下方）を見たところ

振り返って北方向を見たところ

やはり、急峻な斜面となって下りている

さて、この堀跡（堀切）を南方向（斜面下方）へ下って行こう

枯葉が積もり積もってフカフカでよく滑り、この有り様

堀跡（堀切）も次第に竪堀となって急斜面を下っている/足がガタガタになりながら下りてくる

竪堀は麓まで続いていた

すると最初の諏訪神社のところに出た

正面を走る電車は秩父鉄道

さて、これが花園城跡のある小山の全景

右手の小山に花園城跡があり、左手の小山には花園御岳城跡がある（後者の方が若干高い位置に所在するらしい）

こちらは花園城主であった藤田氏の館跡があったとされるところ

この辺り一帯であったようだ/右手の小山の方が花園城跡

こちらはその藤田氏が創立した正龍寺で、ここに藤田氏の墓があるという

正　龍　寺

曹洞宗の寺院で、高根山藤源院といいます。

正龍寺の創立は、花園城主藤田五郎政行で、高嶺山に筥根権現を祭り、一寺を創立す、といいます。能国の時代、文治４年（１１８７年）城下に青龍が出現し、龍泉の湖をつくり、住んだといわれており、貞和４年（１３４８年）臨斉宗の僧實翁和尚が、山号を青龍寺と号しました。天文元年（１５３２年）十五代城主藤田康邦のとき、乾翁瑞元和尚が教化し、龍泉の湖の青龍を化龍して、〝八大龍王〟をこの寺に祀りました。青龍寺は、後に昌龍寺と改名され、天正１９年（１５９１年）徳川家康の時代に現在の寺号正龍寺になりました。

境内には、藤田康邦夫妻や鉢形城主北条氏邦夫妻の墓（いずれも県指定史跡）があり、また、県の天然記念物に指定されている玉垂の楓といわれている名木もあります。

藤田家・北條家墓
寄居町教育委員会

正竜寺

禪宗曹洞派、花園城主藤田康邦の開基
往古萱野なりし頃、池中に竜の棲息し
臨済宗の僧、乾翁瑞元といえるもの教
化し、この地を開いて一寺を建立す
ゆう。後曹洞宗となる

所在の文化財

一、国指定重要美術品
蒔繪竹虎紅葉形鼈甲小箱

二、県指定史跡及天然記念物
花園城主藤田康邦の墓
夫人西福御前の墓
鉢形城主北条氏邦の墓
夫人大福御前の墓

三、町指定文化財
玉垂の楓
霊照女の図（絵画）
仙男、仙女の図（絵画）
書翰三通
北条氏政より氏邦に寄せしもの　一通
氏邦の方丈に寄せしもの　二通

昭和四十二年七月
寄居町教育委員会

覆堂の正面に説明板がある

埼玉県指定史跡

藤田康邦墓　付 夫人西福御前墓

埼玉県指定史跡

北条氏邦墓　付 夫人大福御前墓

指定　大正十五年二月十九日
所在　寄居町大字藤田一〇二―一（正龍寺内）

藤田康邦は、正龍寺の西の山上に築いた花園城及び周辺の藤田郷を中心とする地域を支配した在地領主の藤田氏十五代当主と伝えられている。

藤田氏は、武蔵七党と総称される中小規模の武士団のひとつである猪俣党の系譜を引いており、室町時代には関東管領を世襲した上杉氏の一族山内上杉家の重臣として活躍した。

康邦は、北条早雲を祖とする後北条氏の北関東支配が強まる中で、北条氏康の三男氏邦を養子に迎え、娘の大福御前を妻あわせた。康邦の没年は、天文二十四年（一五五五）、夫人の西福御前は永禄五年（一五六二）である。

北条氏邦は、藤田氏の名跡を継いで天神山城に入ったが、永禄年間に鉢形城を改修して居城とし、後北条氏の北関東経営の拠点とした。天正十八年（一五九〇）豊臣秀吉に降伏した後は、前田利家に預けられ能登国七尾で晩年を過ごした。没年は慶長二年（一五九七）と伝えられている。

なお、夫人の大福御前は、文禄二年（一五九三）正龍寺で死去している。

戦国期の宝篋印塔（ほうきょういんとう）としては大型で、笠に彫られた蕨手（わらびて）や竪連子（たてれんじ）の文様等に特徴があるこの四基の墓は、戦国末期の領国支配と戦国大名の動静の一端を如実に物語っている。

平成六年三月

埼玉県教育委員会
寄居町教育委員会

藤田康邦同夫人墓

藤田康邦とその夫人の宝篋印塔

ちなみにこちらは北條氏邦とその夫人の墓

参考ホームページ

http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/073hanazono/hanazono.html

http://torichi88.blog.fc2.com/blog-entry-202.html

http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Saitama/Hanazono/index.htm

http://homepage3.nifty.com/azusa/saitama/yoriimati.htm

http://www.water.sannet.ne.jp/u-takuo/hanazonozyo.htm

http://www.geocities.jp/tsukayan0112/subdir-siropage/hanazonojou.html

http://www7b.biglobe.ne.jp/~kanetukidouyama/hanazonojou.html

http://www.geocities.jp/buntoyou/f11e-gs/st-f2293hanazono.html

http://gr1rsk.blog.so-net.ne.jp/2004-02-01

http://4travel.jp/travelogue/10764804

http://www.chichibu.ne.jp/~keig/index17.htm

http://jp-castles.cocolog-nifty.com/blog/2012/09/post-eef3.html

http://trademarks.thomsonreuters.com/jp/resouces/kudo02?cid=112&id=k02-040

http://www43.tok2.com/home/yo1029/photo1149.html

http://blogs.yahoo.co.jp/myriver1020/41518653.html

http://siromeguri.sakura.ne.jp/nihonnnojyouseki/kanntoukousinnetu/musasi/hanazonojyou/hanazonojyou.html

http://plaza.rakuten.co.jp/machi11fukaya/diary/201409230000/

http://www.eonet.ne.jp/~mori-pat/castle-hanazono.html

http://syuninmuseum.web.fc2.com/outdoor/rcrec_hanazono.html

http://www.ac.auone-net.jp/~kojyou/hanazono.htm

http://minkara.carview.co.jp/userid/1525201/blog/26973432/

http://gi001.gokenin.com/tanbou/11_saitama/06_ohsato/004_yorii/009_hanazono/hanazono_jou.html

http://castlejp.web.fc2.com/02-kantoukoushinetsu/45-hanazono/hanazono.html

http://blogs.yahoo.co.jp/mei8812462/17035956.html

http://midnighttraveler.seesaa.net/article/319898929.html

http://midnighttraveler.seesaa.net/article/321842476.html

http://www15.ocn.ne.jp/~castle04/hanazono.html

http://ameblo.jp/fujitatoru/page-5.html

http://gokeningi001.blog.fc2.com/blog-entry-462.html

http://shiroyaru.web.fc2.com/tanbo/saitama/hanazono/hanazono.html

円良田ダム
末野
波久礼駅
349
正龍寺
善導寺
藤田
140
グリーンブック
末野陸橋
彩甲斐街道
30
埼玉療育園
八高線
寄居小
玉淀湖
風布
450m
標準地図
街歩き
140
寄居折原
©2015 ZENRIN DataCom
地図データ©2015 ZENRIN